

インターバンクの声（2017年1月12日）

トランプ次期米大統領の記者会見で再びドル買いに勢いがつくと期待していた人たちにとっては散々な結果になってしまった。大統領選後、初めての記者会見でトランプ氏が景気対策や財政政策について積極的な考えを示すのではとの期待が高まり、円相場はロンドン市場の朝からドル買い優勢で始まった。

ニューヨーク勢の参入後もドルの上昇は続き、116円台後半まで買い進まれ、ユーロも1.04ドル台中盤までドルが買い進まれて会見を迎えることになった。会見の冒頭でトランプ氏が複数の自動車会社が米国内での工場増強や雇用創出をしたことへの感謝を述べた直後こそドル買いに反応したが、その後は一転ドルの下落となってしまった。

もともとの会見の目的だった大統領職と事業との間で起こる利益相反についての説明も納得できる内容ではなく、期待された具体的な経済成長促進策も示されなかったとあって、ドル強気派にとっては一旦ドル買いのポジションから撤退せざるを得なかった。それでも114円台前半まで下落した場面から115円台に戻しており、まだドル買いの流れは終わっていないのかもしれないが、20日の大統領就任演説が失望する内容になれば、いよいよ本格的な調整が始まる可能性もある。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。